

優
秀
賞

名前、好きですか



原町第二中学校 三年

平 みおん



私たちには当然のように名前があります。当たり前に与えられている名前ですが、その名前に不満を抱く人が近年増えているように感じます。みなさんは、日本で年間四千人以上の人が名前を変えていることを知っていますか。この「当たり前」の陰に隠れている問題に、私たちはどう対処すべきなのでしょう。

私は小さい頃、自分の名前を好きになれず、一度両親に相談したほど名前を変えたいと思っていました。その頃から名前について考えることが多くなりました。今ではこの名前をつけてもらったことに感謝していますが、私と同じように名前について不満を抱いたことがある人は少なくないと思います。

名前は有史以来から使われ、その社会、文化のなかに生

きる人間に与えられた固有の形です。例えば個人を特定する、他と区別するなら、数字や記号でもいいはずですが。しかし、親や周りの人はその子の健康や幸福を願って名付けます。いわば名前は愛されている証です。自分と他の区別を確かにし、存在を決定づける以上の意味があります。名前は家族との結びつき、アイデンティティそのものであり、私たち一人一人にとつてとても重要なのです。

このように、だれもが大切にしている名前ですが、親がつける名前にコンプレックスを抱く子どもは少なくありません。良く言えば周りの人たちの期待、悪く言えば親のエゴの押しつけです。近年ではキラキラネームが多用され、その子ども達が大人になって改名するというケースが増えています。それはその名前のせいで、いじめやトラブルに

悩まされ苦しんできた故の決断です。また、性別の問題から違和感を覚える人もいます。名前は自分で決めることができないのに、自分が生き続ける限り、さらに死んでからもつきまとうものです。一生を共にするのに不満を抱いたり、生きづらくなったりすることは、あるべきではないと私は思います。

そこで私は、すべての人たちが自分の好きな名前を名乗れる社会であればいいと考えました。確かに、戸籍の名前を何度か変えてしまうと不都合な問題が生じてしまいます。そこで私は、戸籍の名前を変えるのではなく、戸籍の名前とは別にもう一つの名前を名乗ることができるシステムを提案します。身分を証明する名前を戸籍のままにすれば、個人の特定は現在のまま行うことができます。このシステムは名前にコンプレックスを抱く人だけではなく、犯罪の被害者、加害者など本名で生活することが難しくなってしまう人たちへの救済措置にもなるのではないのでしょうか。私は、名前に縛られることのない社会になることを望みます。

ただ、この提案は一つの例であり、社会の慣習を変えることは難しいかもしれません。だから、システムに頼るまえに根本的な問題を解決していく必要があります。つまり、名前をつける側や改名を望む人への理解が何より大切だと

思うのです。これらの問題の原因は、すべての人たちの名前、ひいては個人を尊重することへの配慮、理解が足りていないことによるのではないのでしょうか。誰もが生きやすい社会とは、誰一人拒絶されることなく、互いを理解し支え合うものだと考えます。世の中にはさまざまな性格、さまざまな境遇の人がいます。それと同じようにさまざまな名前の人がいます。それは当然のことです。大切なのは、それを私たちが認め合うことができるかどうかです。偏見を持たず、互いの違いを受け入れること、それこそが「個人の尊重」なのです。

小さい頃は自分の名前が好きではなかった私も、今では全く嫌悪感はありません。それは、社会生活をしていく中で体験を通して多くの人と出会い、自分との違いについて理解したことで視野が広がったからです。個人を尊重することは、物事をより多面的に捉えるきっかけにもなることに気づきました。私は、多くの人々の働きかけにより、社会がより豊かなものになっていると感じます。しかし、多くの自由が認められつつあるこの現代で、未だ理解を得られない問題は多々あります。その解決のために、私たちに自分との違いを受け入れる姿勢が求められています。誰もが生きやすい社会への第一歩として、あなたも問題に目を向けていきませんか。